

The Gateway to Learning

教科別シリーズ
英語編

教科書特集号

巻頭言

学習指導要領が求める英語力を 身に付けさせるために

瀧沢 広人 (岐阜大学教育学部・准教授)

はじめに

皆さん、こんにちは。岐阜大学の瀧沢広人です。昨年、全国学力・学習状況調査で英語の調査が行われました。英語は4年に1度の実施で、とても貴重な資料です。学習指導要領がどのような力を求めているかが分かります。採点基準(評価基準)も示されていますので、どのような基準で評価すればよいのかも私たちは知ることができます。学習指導要領の内容が具現化された極めて貴重な資料と言えるでしょう。結果は、残念なことに「おおむね満足できる状況」には至りませんでした。ということは、学習指導要領が求める力に生徒が追い付いていないということになります。4技能5領域の平均正答率は、以下となります。なお、「話すこと」は、調査日(4月18日)に実施した学校の結果であり、参考値です。

聞くこと 58.9%

読むこと 51.7%

書くこと 24.1%

話すこと(やり取り) 14.5%

話すこと(発表) 4.2%

『令和5年度全国学力・学習状況調査報告書 中学校英語(速報版)』pp.10-13

さらに、『報告書』の1つ1つの解説を読むと、どのような点が課題なのかが分かります。つまり、それらの課題を1つ1つ乗り越えていく授業をすればよいこととなります。学習指導要領が求める力に生徒が追い付くよう、学習指導の充実を図り、学力向上を目指していきましょう。

さて、中学校英語教科書『BLUE SKY』令和7年版が発刊されます。判型はA4判になり、中身の充実が図れた教科書となりました。単元扉ではゴールを確認し、単元への興味・関心、意欲付けを行います。Partの左ページでは、日常的な話題や社会的な話題の文章を読み、内容を掴んだり、語彙や表現をインプットしたりします。右ページでは、文法を学び、使い方を身につけます。単元後のRead/Listen&Think, Think & Speak/Writeでは、思考・判断を促し、語彙や表現、文法を用いた文を理解する力、表現する力を育成した単元のゴールの確認のための言語活動となります。単元を通じた指導、単元間をつなぐ指導を行い、生徒に力を付けていきましょう。

1 情報を正確に聞き取る／読み取る

学習指導要領の「聞くこと」の目標のAに、「はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする」があります。しかし、「必要な情報を聞き取る」ことの前に、「情報を正確に聞き取る力」を育てなければなりません。令和5年度の全国学力・学習状況調査の大問1は、「情報を正確に聞き取る」ことをねらいとした問題でした。

では、日々の授業でどのように情報を正確に聞き取らせる活動を行ったらいのでしょうか。各Partの右ページには、Listenというコーナーがあります。ここを「聞かせて終わり」ではなく、聞かせた後、答えの根拠を確認させたらどうでしょうか。例えば、聞かせて答えを確認した後、スクリプトを配ります。そして、どこに答えが書いてあったのか線を引かせます。すると、どのような語句や表現があったからその答えを選んだのか、スクリプトで確認できます。

これは、次のようなLet's Listenでも同様です。

Step 1 ニュースを聞いて、①と②の問に答えましょう。

① このニュースのトピックを()に書きましょう。
()

② 「だれが」「何を」「どこで」「いつ」したか、内容に合うものすべてに☑をつけましょう。

Who	<input type="checkbox"/> students	<input type="checkbox"/> a teacher	<input type="checkbox"/> a doctor
What	<input type="checkbox"/> call the ambulance	<input type="checkbox"/> brought AED	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> went to the teacher's room	<input type="checkbox"/> gave heart massage	<input type="checkbox"/>
Where	<input type="checkbox"/> classroom	<input type="checkbox"/> gym	<input type="checkbox"/> teacher's room
When	<input type="checkbox"/> March 3	<input type="checkbox"/> May 3	<input type="checkbox"/> May 23

Step 2 ニュースキャスターのEmmaとレポーターのTonyの会話を聞いて、①と②の問に答えましょう。

① 日本の中学生はどこでAEDの使い方を学びますか。: _____

② SoheiはいつAEDの使い方を学びましたか。: _____

図1. 『BLUE SKY 1年』 p.122 Step1 及びStep 2

さらに、聞かせた後ペアでどうしてその答えになったのか、どのような英語が聞こえたからその答えになったのか、説明し合わせるものよいです。数学の授業では、言語活動の充実からどうしてその答えになったのか説明することがあります。それと同じことを英語でもやってみるのです。これは、「聞く」だけでなく、「読む」でもやってみるとよいでしょう。本文を利用し、T or FやQ & Aの答えがどこに書いてあったのか、本文に線を引かせたり、どうしてその答えになったのか、ペア同士で説明し合わせたりします。次は、中学2年生のUnit 2 Part 1の本文になります。下に質問があり、「What is Hina going to do this summer?」

とあります。

Scene 英語の授業で、祭りについて調べて発表することになりました。Hinaがスピーチをします。

What is the Aomori Nebuta Festival?

The Aomori Nebuta Festival is a famous summer festival in Japan with a long history. A nebuta is a large, lighted, and human-shaped float. About 20 floats with dancers and musicians parade down the streets at night.

Every year, about 2.8 million people join this remarkable event. This exciting festival is the climax of the short summer in Aomori.

My cousins live in Aomori City. I'm going to go there this summer to take part in the Nebuta Festival with them. I'm looking forward to dancing at the festival.

Enjoy Chatting

Are you going to go to a summer festival this summer?

Words

- lighted [lɪtɪd]
- human [hju:mən]
- shaped [ʃeɪpt]
- human-shaped
- float [fləʊt]
- parade [pə'reɪd]
- point [pɔɪnt]
- million [mɪljən]
- remarkable [rɪ'mɑ:kəbəl]
- climax [klaɪ'mæks]

Words

- musician(s) [mju:zɪ(ə)n(ə)n(ə)]
- street(s) [stri:t(s)]

図2. 『BLUE SKY 2年』 p.20

答えをペアで確認しながら、どうしてその答えになったのかを説明し合わせます。そして、答えの部分に線を引かせます。このようにすることで、「情報を正確に読む」とことが可能になります。

2 Enjoy Chatting で、「即興的なやり取り力」を育てる

今回の教科書は、各Partの本文右上に「Enjoy Chatting」を設けました。これは、生徒の即興的なやり取り力を高めるための活動です。生徒は、小学校の時から、簡単な語句や基本的な表現を用いたやり取りを行っており、話すことに慣れ親しんでいるでしょう。それを中学校でも継続的に行います。Chatということですので、気軽なおしゃべりです。まずは、教師が生徒と気軽なおしゃべりを行うとよいでしょう。中学1年のUnit 5のPart 2の「Enjoy Chatting」は、「How many hours do you usually sleep?」です。中学生にもなると、だんだんと寝る時刻が遅くなったり、朝、ゆっくり起きたり、また睡眠時間が少なくなったりする生徒がいるかと思えます。今一度、日常生活を振り返らせ、規則正しい生活を送る(Keeping regular hours)機会となることを願います。

まず、「Enjoy Chatting」を始める前に、教師が自ら自己開示する必要があります。教師の日課を語ります。

T: Hello, everyone. What's your daily routine? I usually get up around 5. I go to bed at 10. So, I sleep for 7 hours.

I want more sleep. After I get up, I wash my face and change my clothes. Then I eat breakfast and brush my teeth. I go to school at 5:50. I see you around 8. I teach you English, and I go home at 7. I take a bath, and eat dinner, watch TV.

その後、生徒に尋ねます。

T: What time do you usually get up?

S1: I usually get up at 6.

T: Great! (感想を言う) What time do you go to bed?

S1: I go to bed at 11.

T: So, how many hours do you sleep? (質問する)

S1: (指を折って数える) 7 hours.

T: You sleep for 7 hours. (リキャスト)

数名に質問を投げかけ、生徒とやり取りを行いながら、Chatで用いそうな語彙や表現を生徒に聞かせます。

その後「Let's talk about your daily routine with your partners. Start with "How many hours do you usually sleep?"」と言って、Chatに入ります。ポイントは、「Let's talk about ～. (～について話しましょう)」とすることです。その上で、出だしの一言を指定します。つまり、Enjoy Chattingにある質問だけをさせるのではなく、あくまでも話題を切り出す最初の一言になります。

中学3年生では、「Tell me about your friends. How long have you been friends?」のようにEnjoy Chatting (Unit 6 Part 1)がなっています。Tell me about ～. (～について教えて)とすると、**即興的な発表**になります。

Enjoy Chattingを意図的・計画的に、「あいづち」や「質問」「繰り返し」などの対話方略を教えたりし、このコーナーを充実させることでも、生徒のやり取り力を伸

ばすことができます。

なお、Enjoy Chattingは本文内容に関連させて作成していますので、本文導入前のChatとして、その後、そのまま本文に入ることもできます。

3 Express Yourself で、文法の「定着」と「活用力」を養う

Express Yourselfは、新出文法を用い、目的や場面、状況に沿って、自分のことを表現したり、相手のことを尋ねたりし、**実際のコミュニケーションにおいて活用する「技能、思考力、判断力、表現力等」**を身に付けさせていきます。大きく2つの活動があり、1つは、学習した文法を定着させるための活動であり、もう1つは、自分の考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動となっています。

Express Yourselfは、Listenで、新出文法を用いた文を聞き、内容と言語形式を捉えた後、Speakで、機械的な語や語句の入れ替えや口慣らし、応用・発展を行い、**新出文法の「使い方」**を段階的で丁寧に指導した後の活動になります。

あくまでも「**思考力、判断力、表現力等**」は、「**知識及び技能**」を用いて行うことから、新出文法等を丁寧に指導することが大切です。

4 おわりに

「教科書『で』指導する」とよく言われますが、その前に、「教科書『を』指導できる」力量が教師には必要だと思います。「教科書『を』」どのように教えたらよいか、まだまだ研究の余地はありそうです。

引用・参考文献

●令和7年度用教科書「BLUE SKY」啓林館

PROFILE

たきざわ ひろと
瀧沢 広人

岐阜大学教育学部 准教授

1966年1月。東京都生まれ。埼玉大学を卒業後、埼玉県の公立中学校で22年間、小学校で6年間、教育委員会の指導主事、中学校の教頭職を経て、現在、岐阜大学教育学部で教鞭をとっている。主な著書は、学年別の『絶対成功する！英文法指導アイデアブック』(明治図書)等、多々。

小中接続ははじめの一步

～ 中学校英語授業の A New Fantastic Point of View ～

山崎 寛己 (新潟市立下山中学校・教諭)

「まったく新しい世界」(A Whole New World)はディズニー映画『アラジン』の主題歌で、ヒロインのジャスミンが王宮で窮屈な生活をしている際、街で出会ったアラジンの誘いによって魔法のじゅうたんを王宮から飛び出すときに歌う有名な曲です。

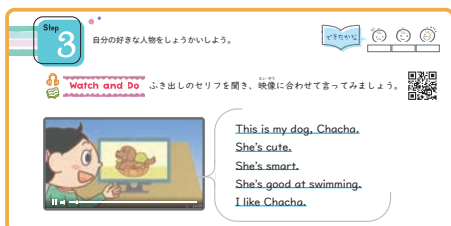
中学校の生徒たちは歌うのが大好きな曲ですが、春から中学校で学ぶ生徒にとっては、英語の授業内容の難易度や授業自体が「まったく新しい世界」では困ります。そうならないため、いくつかの点を確認しましょう。

1 教材のリサイクル —Unbelievable Sight (見たことのない光景)は避けたい—

小学校で外国語が教科化されて以降、新入生たちは期待と不安を抱えたまま、中学校に上がってきます。

「授業ってどんな感じかな?」、「教科書、難しそうだな・・・」特に苦手意識を持っている学習者には、中学校英語との出会いを楽しいものにしたいですね。そこでまずおすすめするのが、教材のリサイクルです。

私の場合、勤務校のすぐそばに校区の小学校があり、連携会議のときに小学校で使っている教科書をお借りしました。中学校で効果的に使用するタイミングは、文法導入時です。教科書は『Blue Sky elementary 5』のUnit 5「This is my sister.」です。He, Sheを主語にした3人称単数の表現が登場します。

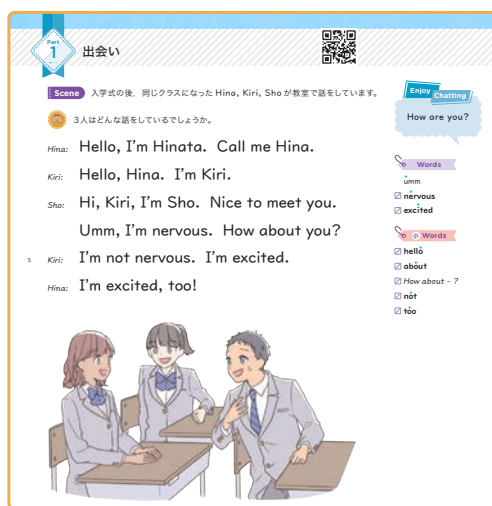


『Blue Sky elementary 5』Unit 5「This is my sister.」

中学生が、英語は難しいと感じる文法項目の1つが「3単現のS」です。説明で理解を促す前に、小学校で扱ったこのページのリスニングに取り組むとどの生徒も「懐かしい!」と声をあげます。そこから、キャラクタークイズや先生クイズなどで表現にたっぴりと触れ、最後はそれぞれの「推し」を紹介する活動を行うことなどが考えられます。このように、小中でリサイクルできる活動が無数にあります。

2 教科書本文をアレンジ —Indescribable FeelingをできるだけDescribeする—

中学校の学習の初期段階では、どの教科書会社でも下のように自己紹介をしている場面があると思います。



令和7年度版『BLUE SKY 1年』p.12

教科書本文は、生徒の身近なものに引き寄せてアレンジすることができます。私の定番ネタである「オリジナル対話作文」の手順を示します。

- ① 本文の内容理解および音読練習、演読を行う。
- ② 本文の視写練習をノートに行う。

③ 誰かとの対話をする作文を創作する説明をする。

①で楽しく、一部変化を加えながら(例：好きなテレビ番組や芸能人などを尋ねてもよいなど)音読をすることで、表現することのおもしろさを教室で味わいます。そして、②で落ち着いてノートに視写することで、英語を書く活動に慣れていきます。初期の学習者は書くことに慣れていないため時間がかかると思いますが、この時間は大切です。いよいよ③の活動に入ります。アニメや漫画のキャラクター、スポーツ選手でもOKと伝えて、対話を想像します。ある生徒の作品を紹介します。

I: 私 O: 小野妹子

I: Hi. Ono no Imoko. Are you a woman?

O: No. I'm not! I am a man.

I: I'm sorry. What food do you like?


O: I like potatoes. My favorite food is "jaga butter."

I: Me too! Jaga butter is delicious.

O Which period do you like?

I: I like the Meiji period. Do you like Meiji period?

O: Yes, I do!



この生徒は、小野妹子がずっと女性だと思っていて、社会の資料集で肖像画を見たときの渋いおじさんぶりに驚き、そのショックをここ(作品づくり)で昇華させたそうです。好きな食べ物を「potatoes (いも)」にしているあたりもユーモアが効いています。

3 そしてA dazzling place I never knewへ

先生方は、最近の中学校1年生を担当してどのような感想を持っていますか。私は現在4年間連続で1年生を担当していますが、1つ確実に言えることは「好きなものを聞く活動に慣れている」ということです。他の質問表現は曖昧でも、「What ○○ do you like?」はほぼ全ての生徒が言えるし、答えられるという感覚があります。中学校ではここに加えて、会話を

継続したり、発展させたりする技術を身につけさせたものです。ご存知のように、学習指導要領に話すこと[やりとり]の領域が目標の1つとして位置づけられました。研修会などで先生方のお話を聞くと、この指導に難しさを感じているという声を聞くことがあります。1年生への指導を具体的に考えましょう。

まず、帯活動としてSmall Talkに取り組みます。はじめは授業者がお題提供者として、数人の生徒とやりとりをします。生徒同士の会話活動前後に、次のようなコミュニケーション方略を示し、1つずつ練習します。練習後は、生徒たちに使用を促しながら、再度活動に取り組みます。

機能	具体例
<i>Repeat</i> (一部繰り返し返す)	A: I'm an Albirex fan. B: <u>Albirex fan?</u>
<i>Reaction</i> (黙らずに反応する)	A: I like sports very much. B: <u>Oh, do you? Me too!</u>
<i>Request for more information</i> (関連した追加質問をする)	A: I like sports very much. B: <u>What sports do you like?</u>

Repeat, Reaction, Request for informationの頭文字から「会話継続のための3Rs」として生徒と共有しています。このように、返答(反応)と質問ができれば会話自体は継続できます。これらも大切ですが、それ以上に大切なことは、1人語りのスキルです。反応が上手でも、中身のある発話ができなければ薄っぺらい会話ごっこになります。授業で様々な語彙、文法、教科書本文に出会うので、その度にそれらを使って自己表現活動を行い、1人で語れるスキルを磨く練習を積みます。そうすれば、狭い空間から抜け出したジャズミンのように、「A dazzling place」に行けるかもしれません。中学校の英語の授業自体が生徒にとっての魔法のじゅうたん(A Magic Carpet)になることを期待して、授業づくりを頑張りましょう。

引用・参考文献

- 令和6年度用教科書「Blue Sky elementary」啓林館
- 令和7年度用教科書「BLUE SKY」啓林館

PROFILE

やまざき ひろき
山崎 寛己

新潟市立下山中学校 教諭
1987年新潟県生まれ。上越教育大学卒業、同大学院修了後、大阪府公立小中学校を経て現職。中学校検定教科書「BLUE SKY」(啓林館)編集委員。共著「中学校英語サポートBOOKS 話せる! 書ける! 英語言語活動アイデア&ワーク66」(明治図書)など。2023年度から月刊誌「英語教育」(大修館書店)にて「チーム中学高校英語 PRESENTS サステナブルな授業磨き」を連載。アマチュアサウナー。

Think & Write「音」から「書ける」へ

～STEP1と2のスキマに豊かな音声活動を入れ、自信をもった「書くこと」へ～

伊藤 智子 (練馬区立大泉学園中学校・主任教諭)

1 「本当に伝えたいこと」に舵をきる

英語力がまだ十分でない中学生に「さあ、書いてみよう」と言って書かせると、たちまち「○○って英語でどう書けばいいですか」の質問オンパレードになり、教室の中で収拾がつかなくなることがあります。特に人物紹介では、自分の「推し」を発表できるとあって、生徒は「書く」でも「話す(スピーチ)」でも大いに張り切ります。悩みの種は、生徒一人ひとりが本当に伝えたいことは実にさまざまかつ複雑なことです。でも、「これを英語で書きたい!」と思っている生徒に「それはまだ習ってない単語(文法)で難しいからやめておこうか」とは言いたくないですね。今は一人一台端末がありますから、やろうと思えば「AI翻訳を使っていますよ」もできます。しかし、AI翻訳に丸投げしてできあがった英文は、スピーチになったときに聞いている生徒に分かりづらくなるのは自明です。話している生徒自身も…。

Think & Writeのページを使って、まだ語彙も表現力も十分でない1年生でも、「そう言えばいいのかわか」と納得感を得ることができ、「英語で話せたぞ、書けたぞ、伝わったぞ」という達成感を感じることができ、授業の組み立てを考えてみたいと思います。そのカギは、音声に力点をおいた練習活動を通して、英語で表現する際の「考え方」を生徒と実際に一緒にやってみせることです。

2 音でモデル提示、たっぷりの練習

『BLUE SKY 1』p.72「身近な人を紹介しよう」では、まず Step 1 でモデルのスピーチを聞き、その内容を表にまとめます。続く Step 2 では、生徒は自分が紹介したい人を一人決め、その人について下のメモを埋めてアウトプットへの準備をします。

Step 2 Step1を参考に、自分が紹介したい身近な人についてメモをしましょう。

名前、関係	
所属	
すること、好きなことなど	
人柄	

『BLUE SKY 1年』 p.72

メモを取る際、生徒がつまずく項目はどれでしょうか。選んだ人物によっては「所属」や「すること」で、なにを書いたらよいか考え込んでしまったり、書きたいことはあっても英語で何と言えればいいのかわからず、途方に暮れてしまったりします。

そこで、Step 1 から Step 2 に移る前に、語彙の復習と増強、さらに直訳ではうまくいかない表現の扱い方・考え方を体験するチョットした練習活動をクラス全体で行うことで、自己表現への梯子^{はしご}かけをします。

「ああ、その言い方でいいんだな」、「聞いたことがある言い方だな」と生徒は納得します。音声で練習を行うので教室が活気づき、アウトプットへの気風にも弾みがつきます。

【Step 1】をそのまま使ってみなで練習】

【Step 1】はリスニング問題ですが、聞き取った内容の答え合わせで終わってしまうのではなく、リサイクルしてアウトプットの練習素材にできます。(例)「じゃあ、この人物(Dan)になったつもりで自己紹介をみんなと一緒にゆっくり言ってみよう。せーの、I am Dan, Kiri's brother. (2文に分けてI'm Kiri's brother.としても良いことも明示的に伝えると生徒は安心します)。I'm a 4th grade student. (メモの情報はすべて伝えればよいわけではなく、省略したり付け加えたりするなど自分でアレンジしてよいことも教えます) Very good. Now, you are Kiri. Who is Kiri again? Yes, Dan's sister. Are you ready? This is Dan. He is my brother. He likes skateboarding.」のように、立ち位置を入れ替えて話すことで練習量を増やすことができます。生徒の様子を見て、「人称の理解と確認に戻った方がいいな」とか「動詞の復習が足りないな」と思えば、ここで入れることもできます。便利なリソースである巻末のWord Boxにワープして語彙を補強するのもお勧めです。他にも、既習表現の復習や定着をねらいとして、生徒とQ&Aのやりとりをはさむのも効果的です。

(例) T: Is Dan good at skateboarding?

S: Yes, he is. He is good at skateboarding.

T: Does he have a skateboard?

S: No, he doesn't. But he wants one. / He is a member of ~. / He can ~ well / fast / with ○○. 等。

このあと生徒が英作文することをあらかじめ想定し、汎用性の高い語句を意図的に練習文の中に組み込みます。また、生徒から共通して質問が出る語句は黒板に文字で示しておけば、個人作業に入ったときや生徒が互いに教え合う際のリソースとして参照できます。学年の先生や芸能人などに代えながら、生徒から言いた

い内容を引き出しつつ、音声と文字を行ったり来たりして表現を補強してから【Step 2】に入れば、そこからの個人での作業がグンとスムーズになります。

【教科書キャラクターでWho is this? クイズ】

【手順1】 教師からヒントを聞きます。

例: T: He is a student. He is from Singapore, but he doesn't live in Singapore now. He likes animals and playing badminton. He sometimes cooks chicken and rice.

S: I see. He is Jin.

T: That's right.

【手順2】 答えの人物のイラストを提示し、その横にヒントの文で使った語句の一部をキーワードとして板書します。「どんな単語を使った?」と尋ね、生徒から引き出すとよいでしょう。その後、その語から文を想起し英文に組み立てる、簡単な再話の練習をします。このとき「スポーツが好き、中でも野球が好きだ」のように情報にはサイズ感があることや大きい情報から小さい情報へと並べる構成のコツも生徒に考えさせながら教えます。

3 「言える」を大切に、「書くこと」へ

以上のような練習活動をチョット挟むと、生徒は「難解な日本語を英訳して作文する」という発想から解放されていきます。「知っている英語で言えるぞ」という自信が「あとで書くときにはこの言い方を使おう」という見通しや手立てになるのです。「音声で言える英語」がたくさんあるということは生徒がもつ強みです。それを活かし、書くことに繋げられるよう【Step 1】と【Step 2】のスキマに豊かで丁寧な音声の梯子をかけたかと思っています。

引用・参考文献

●令和7年度用教科書「BLUE SKY」啓林館

PROFILE

いとう ともこ
伊藤 智子

練馬区立大泉学園中学校 英語科

オーストラリア、ケニア、台湾、カナダ、アメリカ、ロシア、パキスタン、ルワンダ。この春卒業した生徒たちが、3年間の間に文通やオンライン中継授業でつないでできた国々です。タブレット端末で、英語以外の言語にもアクセスしやすくなった今、多言語で「こんにちは」、「ありがとう」を調べて、画面越しに聞いたり話したり、そして手紙に書いたりして、本当に使ってみる経験ができる今の時代の教室は本当におもしろい!盛り上がるコーナーは、第1位 筆箱の中身紹介、第2位 カバンの中身紹介、第3位 好きな物紹介&学校で流行っているもの紹介(そして実演)。次は何を紹介しようかな?と思う気持ちから、自己表現が始まります。

思考を促した表現活動をやってみよう

～ 中高の英語教育を豊かにするために ～

宮崎 貴弘 (神戸市立葺合高等学校 教諭)

1 生徒の考えを引き出す授業

中学校から高校に異動して、約12年が経ちました。中学校の英語教育を見つめ直したとき、大切にしたいことが1つ浮かびます。それは、「教科書を発展させて、英語力をつけること」です。

英語力を伸ばすには、コンテンツの指導が欠かせません。レッスンの題材を膨らませると、生徒が真剣に考える静寂が生まれ、生徒の意見は異なり、英語が苦手な生徒も表現したい気持ちに駆られて懸命に話し始めます。そして、「面白い意見がいっぱいあるから、みんなにシェアするために書いてもらうね」と言って書いてもらいます。

高校の実践例ですが、レッスンの題材と関連づけて、最後に「If you have time and an opportunity to write a letter to someone, who would you write to? What would you write about? And why?」と問いかけてライティングでまとめてもらいました。下はある生徒の作品例です。

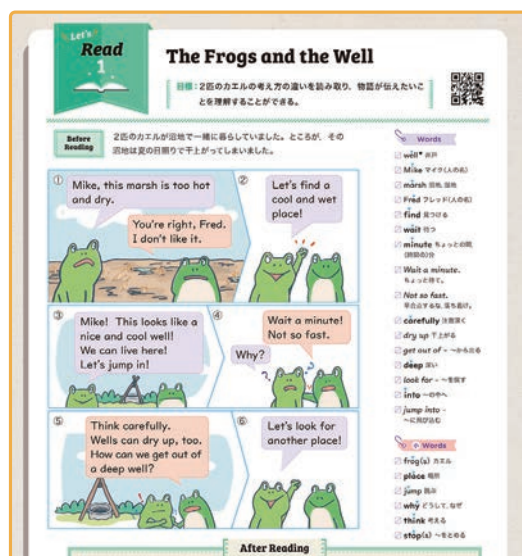
● I want to send a letter to my grandparents. They have been supporting me since my mother died. I was really sad, but I didn't have time to be sad because my father went back to work early in the morning, and I was busier doing the housework, studying, and participating in club activities. Although my grandparents also looked sad, they came to my house to cook for my sister, brother, and me. Additionally, my grandfather always listened to me on the phone. When I was studying for exams, they always encouraged me, and I felt their love. I want to say "Thank you" to them.
My grandparents have been diagnosed with a serious illness, and they are currently fighting it. I believe that my letter can cheer them up. They have shown me so much love, and I want to give it back to them now.

この作品を読んだ多くの先生方が涙を流します。私たちの想像をかき立て、心に訴えるものがあります。

さて、中学校でも生徒の考えや思いを引き出す教科書の扱い方をしてみませんか。中学1年生でもできます。

2 思考を習慣化しておく

中学校英語教科書『BLUE SKY』は、各学年の発達段階に応じた内容の豊富さが特徴です。その内容をうまく活用して、生徒の思考を促してみましょ。例えば、中学1年生のLet's Read 1は2匹のカエルの物語です。



『BLUE SKY 1年』 p.98

みなさんであれば、どのような表現活動を設定しますか。私は、まずMikeとFredの性格を英単語で表現するよう考えてもらいます。私が思いつくのは、「Fred is easily influenced by others.」です。中学1年生にはinfluenceは難しいと思うでしょうが、うまく導入するコツがあります。

生徒が考える前に、教師が「性格を表す単語一覧」を配布してしまうと、この活動が台無しになります。生徒の心理を踏まえた配布タイミングが大事です。先に一

覧を提示すると、生徒はその中から選びます。人は必要性を感じたときに、最も適したリソースを活用します。生徒が考えて「表現したいけど言えない!」となったときに教えましょう。多くの生徒が知っているインフルエンサーという言葉と関連付けられるでしょう。教師が英語の表現を提示するには、生徒が考えそうな表現を予想しておく必要があります。

一覧を前もって配布しないのは、1年時から生徒に柔軟な発想を促し、自分で考えられるように鍛えるためです。もちろん、最初から自分で考えられない生徒もいるので、様々な考えに触れる場面を用意します。ALTに例を出してもらってもいいですし、先に思いついている生徒の考えを知ることでもいいでしょう。

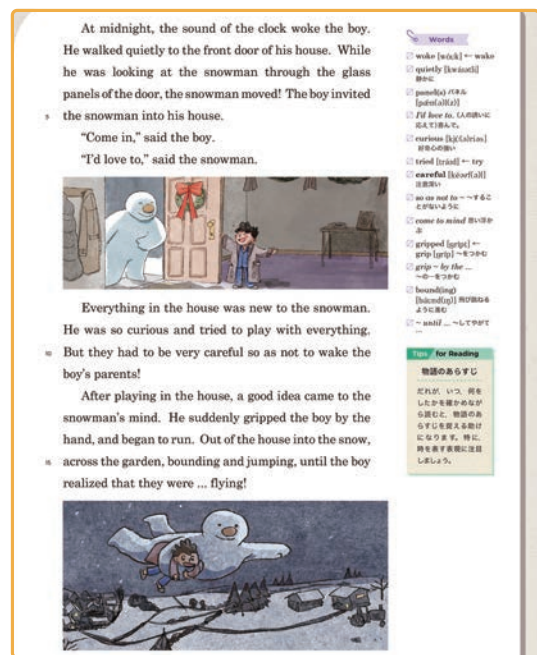
考えに正解や不正解はなく、いい考えや悪い考えという区別もありません。その生徒が生み出した考えを尊重しましょう。また、教師が生徒の答えを予想しておくことが大事で、予想をはるかに超える答えが出てくると、生徒の発想の豊かさに感動を覚えるでしょう。

カエルの性格を表現しただけではあまり中身がありませんので、あなたはMike派? Fred派?と自分と照らし合わせることもできます。また、自分の性格とその理由を紹介したり、人間関係も考慮したりした上で友達の性格の良いところを伝え合ってもいいでしょう。きっと、生き生きとした表情でやり取りをするでしょう。

3 想像を楽しむ経験をしておく

中学2年生の教科書 Let's Read 2 「The Snowman」を手にとって読んでみてください。最後にリテリングの活動が設定されています。授業でリテリングをすると、お互いが知っている情報を伝え合うことになります。ここで大事なのは、事前に内容を掘り下げておくことです。

内容をきちんと理解していない物語をリテリングしても、物語の良さが伝わりません。そこで、内容理解を行った後に、私であれば「What was the snowman thinking about while the boy was sleeping?」と問



『BLUE SKY 2年』 p.91

いかけ、snowmanが庭に立ったまま考えたことをセリフにしてもらいます。男の子のところへ向かう経緯を考えてもらうのです。当然、物語と関連していないといけません。接続詞も既習済みなので、whileを取り入れた質問文にします。

さて、先生方も本文を読み直してみてください。目が覚めると「Everything was white!」だったことと何か関連づけられるかもしれません。「He used an orange for the nose.」かも。また、最後に溶けていたことも…。このように想像を促す働きかけをしましょう。

4 中学校だからこそ思考を促す

先生方も、生徒の表現内容にはっと息をのんでしまったことがあるはず。ときには、生徒の考えや発想に負けたとってしまう場面もあるはず。英語力の問題ではなく、生徒の思考力・発想力に感動しているのです。『BLUE SKY』で題材を膨らませて、生徒の目が輝く実践例をぜひ教えてください。

引用・参考文献

●令和7年度用教科書『BLUE SKY』啓林館

PROFILE

みやざき たかひろ
宮崎 貴弘

神戸市立葺合高等学校・教諭

神戸市の中学校(6年)を経て、2013年から現任教に勤務。生徒同士のインタラクションをテーマに、現在、兵庫教育大学大学院博士課程で研究中。主な著書に『英語教師の授業デザイン力を高める3つの力：読解力・要約力・編集力』(中嶋洋一編著、共著、大修館、2023)、『4達人が語る！至極の英語授業づくり&活動アイデア』(共著、明治図書、2022)他。

啓林館があなたの 実践的な授業をサポート

！ 学びがいっぱい！

情報配信サービス

中学校 エデュフル

啓林館からの
お知らせも
配信中！



「中学校エデュフル」とは、先生の授業づくりをサポートする啓林館の情報配信サービス。
各学年・各教科（数学・理科・英語）毎の指導のポイントや、
生徒たちが興味を持つ授業づくりのアイデア、啓林館からのお知らせ等を直接お届けします。

Point 01 今知りたい授業のワンポイント

例えば

どうしたら
学ぶ楽しさを
伝えられるんだろう…



授業で
使える
アイデア！

啓林館の
ノウハウが
あなたのものに！

Point 02 高校入試の傾向と対策

例えば

生徒たちを
より上の学校への
合格に導きたい…！！



今ほしい
情報！

入試問題について
詳しく解説します。

Point 03 授業力をみがく

例えば

生徒の成績を
向上させたいが
どうすれば分かりやすく
教えられるだろう



丁寧な
解説！

先生が身につけて
おきたい様々な事例
など授業の基本を
徹底サポート！

登録はスマホで **カンタンに!**



LINEで登録

右記のQRコードを
読み取り、
お友達登録！



Webページで登録

右記のQRコードを
読み取り、登録！



メールで登録

keirin2@req.jp 宛に
空メールを送信し、登録！

啓林館 中学校エデュフル 検索

Multilingual Text

KEIRINKAN DXシリーズ



マルチリンガル教科書



外国人・
帰国子女の
児童・生徒に



日本語支援 有料

アプリケーション

Keirinkanマルチリンガル教科書は、Catalog Pocket(株式会社モリサワ)の自動翻訳機能を利用して、啓林館教科書を**多言語(10か国語)**に表示できるアプリです。



Powered by **Catalog Pocket**

実績

全国170以上の自治体が情報配信に活用しているカタログポケットなので、安心してご利用いただけます。

UD

ユニバーサルデザインに配慮し、リフロー型ポップアップテキストで読みやすい仕様です。



英語だけではなく幅広い言語に対応 /

モリサワ社製のアプリ「カタログポケット」を利用して教科書を多言語表示します。日々進んでいる人材のグローバル化、共生共栄の時代に合わせ、特にニーズの高い言語に対応しました！



対応言語

SUPPORTED LANGUAGE

	日本語		英語		韓国語		中国語繁体字		中国語簡体字
	タイ語		ポルトガル語		スペイン語		インドネシア語		ベトナム語

※ベトナム語以外は、機械音声による読み上げもあります。



対応教科書

令和6年度用小学校教科書にも対応

SUPPORTED TEXTBOOK

小学校		算数		理科		生活		英語	中学校		数学		理科
-----	--	----	--	----	--	----	--	----	-----	--	----	--	----



音声読み上げ機能が効果的

学校現場の指導実態のご意見を取り入れ、文字が読めない児童・生徒のために翻訳した文章を音声で読み上げる機能がついています。小学校1年生から中学校3年生まで幅広い発達段階でのご活用が可能です。



1人1台端末環境とマッチ

GIGAスクール構想を基にした「1人1台端末」の環境が揃っています。特別支援の観点からもタブレット、PCの学習効果をフル活用した内容です。

令和7年度用 指導書 のご紹介

啓林館の指導書は先生方をサポートします

指導の資料を
WEBから
ダウンロード



KEIRINKAN Portal

Q 啓林館ポータルとは？

A 指導書に付属する指導用データや画像等をダウンロードできるサービスです。指導書をご購入いただいた学校の先生方がお使いいただけます。

Q 何がダウンロードできますか？

A 指導書付録 DVD-ROMと同様のものを、WEBで閲覧、ダウンロードできます。さらに、**ポータル限定の資料**をご用意しております。



ポータル
限定資料

中学校の体験版はこちら
<https://jh.keirinkan-portal.com>

ここに、ユーザー名とパスワードを入力して、ログイン



中学校 数学	ユーザー名	keirin-jsugaku
	パスワード	trial-jsugaku
中学校 理科	ユーザー名	keirin-jrika
	パスワード	trial-jrika
中学校 英語	ユーザー名	keirin-jeigo
	パスワード	trial-jeigo

※制作中のため、仕様および内容は変更になる場合がございます。